

3月になり、前国連事務総長コフィー・アナンを仲介役としてケニア大統領選挙後の混乱は、政治的な決着を国内外に知らせることとなった。結局、キバキ氏が大統領として続投し、敗北したライ氏らが、prime ministerとなることで決まった。両氏は、二人揃ってゴルフをしているところを報道させるなど、関係回復をアピールするのに忙しい。

全くもって、透明性に欠ける「アフリカの政治」を象徴したような今回の選挙後の混乱だったと思う。選挙の開票作業の正確性は、第三者機関であるはずの選挙管理委員会の信憑性やEUの選挙監視団などの視察の拒否、マスコミを開票場に入れないなど、どこまで本当かどうかはわからないがいろいろな噂を呼んでしまっている。アフリカの政治家たちの汚職、職権乱用、その不透明性。思わずアフリカがもっと発展しない理由の根源がそこにあるのではないかと感じてしまう。

アフリカの政治家ってどんな人たちなんだろうと、ケニアに住んでいた時から興味があって演説会、選挙活動、ハランベと呼ばれる寄付金を集めるパーティー等機会があるごとに参加してみた。私がいた4年前は、ちょうど大統領選挙があり、しかも野党のキバキ氏が与党のモイ氏を破ったこともあり、政治的に大いに盛り上がっていた。しかし人々の期待とはよそに、選挙票をお金やもので売る人はたくさんいて驚いたことを覚えている。

例えば西アフリカのシオラレオネという国では、選挙の時、字が書けないよう両手を斧で切るという残虐なことがあったりしたが、少なくともケニアでは民主的に選挙が行われたように見え

ていた。しかしキバキ氏が就任後、彼が任命した大臣たちを乗せた飛行機が墜落したり(数名の大臣が死亡、意識不明)、その後も暗殺事件がおきたりしていた。陰では旧体制を支持する人たち(旧大統領陣営)の仕業ではないかと言われている。

モイ大統領は、自分を支持しない政治家、人々を片っ端から投獄していた。「言論の自由」は、自分にはあっても人には与えてこなかった。日本のように「～に反対」と街頭でデモ行動をするというのはあり得ないのだ。そう考えるとキバキ大統領になってからは、人々が自分たちの意見を発言しているような気がする。

ケニアの政治家は、間違いなく演説が上手だ。すぐに引き込まれていって、聞き入ってしまう。冗談もところどころにあり、言葉の魔術師かのごとく人々を魅了させていく。そしてやっぱり太っている人が多い。肥満は富の象徴のようである。そして笑顔が素敵だ。カリスマ性があるのだろう。だから人々は尊敬のまなざしで選挙区の代表を送り出す。

本当に国の発展を何よりも考えている政治家をと思うが、残念ながら少ないのが現状のようである。

国際的には、落ち着いたように見えるケニア。住む所を追われた国内難民の帰還はまだ進んでおらず、人々の心に残した傷跡や経済的な損失からはこれからはすぐには立ち直れそうにはなさそうだ。